

再評価結果（平成20年度事業継続箇所）

担 当 課：道路局国道・防災課
担当課長名：下保 修

事業名	地域高規格道路 一般国道208号 有明海沿岸道路 <small>ありあけかいえんがんどろう</small> <small>おおもたたかたどうろ たかたやまと おおかわ</small> （大牟田高田道路、高田大和バイパス、大川バイパス）	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 九州地方整備局
起終点	自：福岡県大牟田市新港町 至：福岡県大川市大野島 <small>おおもた しんこう</small> <small>おおかわ おおのしま</small>	延長	自専：27.5km 一般：9.6km		
事業概要	国道208号は、熊本県熊本市から佐賀県佐賀市に至る延長約72.9kmの主要幹線道路である。有明海沿岸道路（福岡県区間）は、地域間の交流、連携を強化する地域高規格道路として位置づけられており、更には重要港湾である三池港や佐賀空港といった広域交通拠点と沿線都市群とを連携し、また現道の混雑緩和や交通安全の確保を目的として計画された延長27.5kmの自動車専用道路である。				
S63年度事業化	H10年度都市計画決定	H2年度用地着手	H12年度工事着手		
全体事業費	2,380億円	事業進捗率	39%	供用済延長	0km
計画交通量	17,600～40,900台/日				
費用対効果分析結果	B/C： （事業全体）3.3 （残事業）7.0	総費用： （残事業）/（事業全体） 1,028/2,201億円 事業費：907/2,080億円 維持管理費：121/121億円	総便益： （残事業）/（事業全体） 7,188/7,188億円 走行時間短縮便益：6729/6729億円 走行費用減少便益：286/286億円 交通事故減少便益：174/174億円	基準年： 平成19年	
感度分析の結果	残事業について感度分析を実施 交通量変動：B/C=7.7（交通量+10%） B/C=6.3（交通量-10%） 事業費変動：B/C=6.4（事業費+10%） B/C=7.7（事業費-10%） 事業期間変動：B/C=6.7（事業期間+20%） B/C=7.2（事業期間-20%）				
事業の効果等	・円滑なモビリティの確保（並行する国道208号の渋滞損失時間の削減が見込まれる） ・物流効率化の支援（佐賀空港や重要港湾三池港へのアクセス向上が見込まれる） 他18項目に該当				
関係する地方公共団体等の意見	有明海沿岸道路は、地域間交流の促進、交通混雑の緩和等に重要な役割を果たすことが期待されており、大牟田市をはじめとする関係4市の首長で構成される有明海沿岸道路建設促進福岡県期成会より早期整備の要望を受けている。				
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等	大牟田エコタウンの稼働に伴い、九州各地からのRDF関連大型車両が増加し、沿線地域の交通混雑に拍車をかけ、更に住環境の悪化が懸念される。				
事業の進捗状況、残事業の内容等	平成19年度の暫定供用（大牟田IC～高田IC、大和南IC～大川西ICのL=21.8km 2/4車線）を目標に整備促進中である（高田IC～大和南IC間L=2.0kmについては、H20年度供用予定）。				
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等	矢部川橋梁の主塔基礎部の沈下により、高田IC～大和南IC間についてはH20年度供用予定。順次、残りの自動車専用道路部の整備を行う。				
施設の構造や工法の変更等	軟弱地盤対策として、学識経験者、有識者を含めた検討委員会を設立し、試験盛土結果やコスト削減の観点から適切な工法を選定している（約16.5億円の縮減）。				
対応方針	事業継続				
対応方針決定の理由	以上の状況を勘案すれば、当初から事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。				
事業概要図					

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。